

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

Interview ①

立命館大学 生命科学部 生物工学科 (講師)

戸部 隆太



出身大学・卒業年度：京都大学 大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 博士課程後期修了 2009年 博士（農学）
博士論文タイトル：セレンタンパク質生合成の酵素学的研究

「現在の仕事について」

◆担当職務

・生物における金属およびアミノ酸代謝についての研究
・学生指導を含めた研究業務、講義や実習などの教育業務

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容
学位取得後、アメリカ合衆国の National Institutes of Health にて約6年間ポスドクとして勤務しました。ここでは、これまでやったことのない「がん」についての研究を行い、細胞やマウスを用いた研究を初めて経験しました。

◆そこでのやりがい

生活も文化も研究内容もすべてが初めてのことばかりで最初は戸惑うことばかりでしたが、逆に言えば、新しい能力を身に着けるチャンスであり、チャレンジでした。つたない英語を駆使しながら調査し、実行し、相談し、失敗し、また挑戦する。それを繰り返し、最後に成功することで、少しずつですが自分が研究者としても人としても成長できていることが実感できました。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

ポスドクのころは自分の研究をただ進めることを考えていました。その頃は、それがとても楽しく感じていました。今は、自分の事よりも学生のために使っている時間が大半です。しかし、学生と一緒に考え、時には教えられることもあり、それはそれで楽しく感じています。そんな中で学生が成長していく姿を見るのはとても嬉しく思います。

◆現在の就職を決めた理由

どこで何の仕事をするのかも大切ですが、私は誰と仕事をするのかはもっと大切な気がします。私の場合、自分の実力というより、たくさんの人に助けられて今の職が

あると思っています。助けていただいた方々への恩返しには、これが一番良いと考え、現職への就職を決めました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

現在の職場でもう少し経験を積み、研究者・教育者として独り立ちできるようになったら「戸部研究室」を持つてみたいと思います。

◆挑戦したいと思っていること

何でも良いので研究において自分の武器となるものを身に着けたいと思っています。また、今後のことも考えて何か資格の取得にも挑戦したいと思っています。

◆社会人として一番感動したこと

渡米した当初、部屋には何もありませんでした。ベッドもなく、しばらくは服を枕にして床で寝ていました。そして、給料を頂くようになって大きいベッドを買いました。その時に自分のしたことがお金という形で価値あるものとして世間に認められた気がしました。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

みなさんそうだと思いますが、困難だらけで一番は決められません。自分にできることを目一杯やって乗り越えてきたのだと思います。ただ、その時だけ目一杯頑張るのではなく、日々努力を続けていると誰かが見てくれます。そして、それを見た誰かが助けてくれます。

◆仕事のプロになるコツ

「好きこそものの上手なれ」です。好きなことを仕事にできればそれに敵うものはないと思います。そして、好きなことを続けるためにはどうすればよいかを考えれば良い結果が得られると思っています。

◆博士力、どこで発揮していますか？

調査力と忍耐力と適応力。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

もちろんお金を稼ぐことは必要ですが、仕事をしているという自覚はあまりなく、研究と教育を学生と一緒に楽しんでいる感じです。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

家族みんなが幸せに暮らすための一番です。裕福にはなれないかもしれませんが、世間一般の暮らしができれば良いなと思います。

◆ワークライフバランスで工夫していること

今はバランスを考えている余裕もなく、日々必死にやっています。その分、家族に迷惑をかけて申し訳なく思っています。

◆現在の夢

定職と定住

◆将来の展望

いつか自分の研究室をもち、そこで「これはお父さんが発見したんだよ」と子供に胸を張って言えることを成し遂げたいです。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
英語や化学などについて基礎からもっとしっかりと学んでおけばよかったと思います。授業を受けていた時は単位を取ることにしか考えておらず、そんなに将来の役に立たないと思っていましたが、今となってはもう少し興味をもって学んでおけば今に活かされたなと思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

①やりたいことを見つけること

②良い師に出会うこと

③（海）外に出ること

まだ偉そうなことは言えないですが、私の人生の選択において大きく影響を与えてくれた要素です。一番難しいのが、①かもしれません。そのため、先に導いてくれる師に出会うことやそれを見つけに海外に出るのもよいかもしれません。人生は人それぞれです。自信をもって自分の選択を信じて突き進んでください！

連絡先 E-mail: tober@fc.ritsumei.ac.jp

Interview ②

東レ株式会社先端融合研究所

野口 拓也



出身大学・卒業年度：九州大学生物資源環境科学府生物産業創成専攻・2015年度博士課程修了 博士（農学）
博士論文タイトル：混合糖からの効率的なブタノール生産とCarbon catabolite repression回避機構の解明に関する研究

「現在の仕事について」

◆担当職務

非可食バイオマスを用いたバイオプロセス開発を目的として、微生物の育種、改良を主な業務としています。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

- ・2011年7月生物工学会若手の会デビュー（山梨）
- ・2013年4月～博士課程進学
- ・2014年7月若手の会@神戸に参加
- ・2014年10月～2015年1月までカナダのオタワ大学に留学し、緑藻類の培養、取り扱いを学ぶ。
- ・2015年7月若手の会@名古屋に参加
- ・2016年4月現在の東レ先端融合研究所に配属され、微生物の育種および培養評価、遺伝子発現解析に取り組む。

◆そこでのやりがい

- ・これからの東レの柱として期待されている分野に取り組んでいること
- ・ラボスケールだけでなく、その後の商業生産を成功させるための課題についてチーム一丸で取り組んでいること
- ・同期、チームのメンバーと切磋琢磨できていること

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

少ないメンバーで大きなテーマを動かしているのが、入社年度に関わらず重要な仕事を任せてもらえることが魅力です。また、労働組合による社員のサポート体制が充実しているので研究に集中することができ、非常に有難く感じています。

◆現在の就職を決めた理由

東レという繊維、樹脂が主力事業の会社の中で、自分の経験を活かしてバイオ事業分野に挑戦できることに面白さを感じたので、入社しました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

ラボスケールでの培養評価を通じてスケールアップに携わり、海外での実証試験などで商業生産に必要な経験を積みたいです。また、育種した微生物を武器に新たな市場への参入にも挑戦するために、市場調査のノウハウや社内外での人脈形成に積極的にチャレンジしたいと思えます。

◆挑戦したいと思っていること

- ・現在関わっている仕事で特許を出願すること
- ・新規研究テーマの立ち上げの挑戦

◆社会人として一番感動したこと

自分が育種した微生物が、チームに新たな市場に挑戦できる可能性を示した時

◆一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

修士課程で研究職として約20社応募して1社も内定をもらえず就職活動に失敗したことです。この失敗で自分が研究職を志す者として未熟であることを痛感しました。相当落ち込みましたが、リベンジすると誓ってその後の博士課程の中で知識やプレゼン力、後輩指導、人脈づくり(お酒)といった経験を積みました。その甲斐あって現在の会社に内定を頂きました。

◆仕事のプロになるコツ

入社3年目で自分が仕事のプロだなんて言えませんが、業界の動向と当社の立ち位置、チームの研究方針、その中で自分に何が求められているのか、どんな実験を優先すべきか、ということに仕事をするうえで注意しています。

◆博士力、どこで発揮していますか？

何気ない会話から問題の本質や課題解決の糸口をつかむ洞察力、想像力は博士課程で培われたものだと感じています。また、前述の失敗から、小さな失敗であれば落

ち込まない「鈍感力」のようなものが身についた気がします。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

働くという漢字の通り、人（社会、チーム、家族）のために動いています。

◆自分にとって、お金を稼ぐ意味

チームの力になるのと同時に、家族が笑顔で過ごせるように努力するため

◆ワークライフバランスで工夫していること

1日の実験計画は20時までに娘をお風呂に入れることを念頭に逆算しながら考えています。なかなか難しいです。

◆現在の夢

自分が育種した微生物がバイオプロセスの発展の一助になること

◆将来の展望

漠然とですが、将来的には、企業で得た経験や知識を学生に還元するためにアカデミアで教員ができればいいなと考えています。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
科研費や給付型奨学金の獲得にチャレンジすること

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

振り返ってみると、研究、学会（特に自分の場合は若手の会）を通じて得た技術や知見、人との出会いが自分を成長させてくれたと改めて感じました。

大いに研究に打ち込み、大いに人と交流してください。その積み重ねが人を魅力的にし、就活だけでなく今後の人生の貴重な宝物になるはずです。

連絡先 E-mail: Takuya_Noguchi@nts.toray.co.jp